

【「んぎつね授業記録⑩」】

「その明るる日も」

T 今日、これから考えてもらいたい問題を黒板に書くぞ。

兵十とかすけの話聞いて、ごんは（義昌 頭に来た。）頭に来た。

「おれは引き合わないなあ」

義昌が頭に来た、といっていますね。頭に来た中身は何だったか、もう一度おさらいをしてみます。

今までだったら、兵十のところへ栗をもって行って、兵十は、「だれがくれるのかわからないが、ありがたいなあ。」って思ってた。

ごんは、（安裕 自分に言っていると思ってた）喜んでるのを自分に向かっての喜びやなあつて感じられて（安裕 とてもうれしかった。）うれしかったわけだな。だから、毎日持っていて繰り返して持っている間に、兵十と友達になったような気持ちになったんで、ちゃんらが言ってたよなう。ところが、そんなに気分だったのに、かすけが、「そりゃあ神様だよ。神様にお礼を言う方がいいよ。」といったばかりに、兵十は、「うん」といつちゃった。ほうすると、これから先はどうなるわけ？

義昌 神様ばかりお礼をして、よいことは、こっちへもどってこうへん。
T そう、「神様、ありがとうございます。」で、こっちはつかり向いて、ごんの方には向いてこない。いくら自分が兵十のためにやっても、兵十は、（安裕 神様にばかりお礼を言う。）

こんなつまらんことがあるかって、腹を立てたんですね。
ところが、文章を見てください。

「その明るる日も、ごんはくりをもって兵十のうちにでかけていきました。」
こう書いている。「つまらんなあ。」「あほくさいなあ」て気持ちになってるごんが、「その明るる日も」また、行く。こう思っていたごんが……

義昌 それでも兵十のおつかあを殺したつぐないはまだすんでへんでな

T どうしてだろう なぜ、そんなにするんだろう、というのを、今日考えてみたい。

C はい

T 三分ほど時間とるから、「こうじゃないかな」「わたしはこう思う」っていうのをメモしてみて。

C ……間……

T みんなひとつずつ考えをもったみたいですね。

じゃ、みんなの意見を聞きながらここの「やめなかった」ごんの気持ちを考えてみたいと思います。はい、ちかちゃん

（小さい声で聞き取れないので何度か聞き直す）

千佳 ごんは 神様っていわったからばれへんでよかった。

T ……でもちかちゃん、「つまらん」て思うんでしょ。そこ、考えて

北斗 自分が悪いいたずらをしておっつかあを殺してしまったからもっていかないと気が済まない。

C ちがう ほくちゃんに

T ちよつと待って。北斗君は何やて？

悪いことしたんだから、気が済まない。はい、北斗君みたいに思った人ある？

C ほれもあるけど、

T 義昌

義昌 北斗君ににているけど、兵十のおかあを殺したつぐないの分。いわしやにぶんなくられた分も混じってるでな、そんなに償いができてへんで

T まだ済んでない。

義昌 済んでたらもうこんなんやめよる。

T はい、康治

康治 あのな、ぶつぶつ言ってもやめられへん。

T ちよつと今のはまた違う。……これ（つぐない）とは違うって言っているの？

康治 うん。

T なんか、今の康治は、ぶつぶつ言ってもやっぱりやめられん。

どういうことや？康治みたいなのに、ぶつぶつ思うんだけど、やめられない。だけど

それは、償いでもないような気がする。康治はそう言う。

智美 ちがうで（T うん）

そんなことでくじけるごんじゃないし、持っていたらいつか気付いてくれる。

T いつか気付いてくれるだろう

安裕 気付いてくれたらよけいうれしい

T 太志

太志 こんな楽しいことやめられへん。

T あっ？

和寿 こんな楽しいことやめられへん。

T ということは、康治に近い？

C いくつかつぶやき

T ここんとこ、もうちよつとていねいに考えていこうな。

太志はこんな楽しいことはやめられへん。

宏あのな、もっていく理由じゃないけどな、兵十がほんとに神様にお礼を言うか確かめた
い。

T ああ……

安裕 ほれによ、うんというか……

T 今、こんだけできています。じゃ、もうちよつとみんなはどう考えているかね。

清貴君はどの考え？この中にあるどれに近い？

清貴……

T ちよつと見てて。簡単に言うるとよ、清貴君。こんだけ材料が出たんや。

一つは、北斗君や義昌がいうてるのは、「兵十に悪いことしちゃった。まだ償いが済んでないんや。もっとやらなあしやあない。」この気持ちがあるから、行ったんだ。というのが、北斗君や義昌の考えな。

それから、そんなんじゃない、償いなんかじゃない。「やっぱりやめられんのか」それはたのしいんや。(安裕やっぱりよう……)

それから、智美ちゃんはいつか気付いてくれる。だから、今短気起こさなくってもいいくじけないで続けよう。

と出ているんですが、もうちょっとみんなの考え聞かせてくれる？清貴君

清貴 いくら兵十が神様だと思ってもおれがやるしかない。

Tほう、また違うのが出たぞ。清貴、何やて？おれがやるしかない。

いくら神様だと思おうが、おれがやらないで他に誰がやる。おれがやるしかない。

T、他の人、こんだけでているのですが、もう少し丁寧を考えていきましようか。

宏、何かあるの？

宏 あんな、兵十は、今までくりとかいっばい食べてたのにまた暮らしがずれるから

ごんは兵十にあげる。

T……

まず、これから考えていこうか。

悪いことしたんだから気が済まない、まだ償いも済んでないだからって

この気持ち、……あった？どう(Cある)

C……

Tどうや、償いの気持ち

安裕 無いと思う。

T無いと思う？

(安裕がいいかけるのを制して)ここ、考えて。

こんなのはあんまりなかったんじゃないかと思う人。

C 挙手

Tほう、あるやん。(償いの気持ちはないという考えの子があるという意味)

安裕 無いと思う。康治君の

T 償いの気持ちはあったのか、そんなものはないという人もある。どういうこと？

俊介 悪いことしたじゃなくてな、やっぱりな、神様作ってもな、ごんももの足りひ

んしな、もつとやりたいの。楽しいこと。兵十とひとりぼっちでな友達やったのに、

またできひんようになる。

寿子 兵十と、兵十にやれることが償いとか忘れてて……

T今、言うてやることわかる？もういっぺんはつきり言って。

最初は償いから始まったんやな。

ごんがそれからずっと毎日毎日持っていたのは、償いの気持ちが持っていたかせたの？

安裕 始めは償いやったけど、それがだんだんおもしろくなってきてよ、

償いの気持ち忘れてた。

T 償いの気持ちから何に変わっていったの？

安裕 楽しい気持ち

Tそれが、さっき太志らが言ったことやね。

楽しいことって何？

康治 いたずらに変わって、

T 兵十と出会うまではいたずらやったんやな。いたずらばかりの毎日やったな。

それが、償いから始まって、兵十にしてやっているうちに何になったの？

安裕 だんだん

宏 人間みたいになったの。

T 人間みたいに

宏 生活がだんだん似てくる

T 最初は償いやったのが、喜んでくれる、またやってやろう、この中で出てきた

二人の

安裕 愛

T まあ、そういう言い方してもいいな。友達、友情がうれしくって持っていったんでしょ。そう考えたらここで次の日に持っていったのは、北斗君や、義昌が言った償いの気持ちがあったのか。

安裕 ない。

T (償い) じゃないでしょ。では何だろう。償いじゃない。

C ……

C お返しのプレゼント

T ここらへん、もうちよつと考えてくれへん。

康治が、やめられへん……

ごんは、いったんやめたるかと思ったかもしれせんね。

こんなんやめやって。これぐらい腹をたてたかもしれない。

でもやめてしまえなかったのはなぜだろう。

俊介 ここでやめてしまったら、人間の気持ちから、また、前のようになってしまう。

T 今、何か俊介がゆうとするの、祐介感じられる？

祐介 今ここでやめたら、今まで何をやってきたのかわからんしな、

ほんでな、……神様にお礼をいうんやけど、でもな、やっぱり、元気だして……

T もういつぺん言ってくれ

祐介 ここでやめてしまったら、せつかく兵十に元気だしてもらおうと思ってるのにな、

一生懸命くりやらとってきたのにな、ここでやめたらな、今までやってきたことが

C ゆうちやんのほうで

T 今、しゅんすけど、二つあるんやけど、……ゆうちやんの方が分かってきたという人

義昌 元気が出たのが出なくなってしまふ。

宏 今までのことをむだにしたら、せつかく友達になってもらったのに、いっしょにくらしているような気持ちになったのに、人間になりかけてたのに、ほこでやめたらもう人間になれない。

T ここできつちやったら、これから先のごんはどうなるの

C またもどる。いたずらのごんに

安裕 くりとかわたしてたらいつかわかってくれるような気がしたしな、神様から兵十をうばえるような気がした。

T 勇太

勇太 今考えてる

T よし、康治

康治 あのな、兵十は神様にお礼ばかりいってるかな、毎日毎日あげてな神様からさ
りもどそうとしている。

勇太 あのな、今まで、兵十にくりとかもって行ってな、いいことしててな、人間とか
にもぐりこんでるみたいになってな、そこでやめたら、ちよっとは人間に入れたのに、
そこでやめたら、もとのごんにもどっていたずらばかりして、悪いごんにもどる。義昌
悪いごんにもどるんがいやなん。

T もとのごんって

義昌 ひとりぼっちのいたずらごん

T ひとりぼっちのごんにもどってしまうんやな。

最初にもどる。ここにもどっちゃうのが……なげいやなの。

浩二 あのな、いろんなものもっていつてるときは、楽しかったけどな、またもどった
らひとりぼっちやしな、しょうもないしな、いたずらがしとうなる。

祐介 もどへもどったらな、うなぎのことでおっかあが死んだことを思い出してしまふ。

だからな、ちゃんとお返ししようとしている。元氣だしてくれるように。

T ……うん。まあ、ちよっと聞いてみよう。

智美 いたずらごんにもどってな、兵十がうなぎとかとってたのをいたずらして兵十が
死んだら償いのしようがない。だから、もういたずらごんにもどりたくなかった。

T ……浩二がこのうんと楽しいことがあるからって言っている

勇太も「人間みたいになってきた」というのは、このことを言ってるんやな。

やめてしまおうか、と思ったとき、今までのことを振り返ったでしょうね。……

おれが一人ぼっちだったとき、兵十といっしょになったとき、そして、今切ろうと
いうときに……

宏 今まで兵十といっしょに暮らしてきたみたいやってな、ほこで切つてもたら兵十
といままでのごんにとつての暮らしやっただ、今までの暮らしの縁を切ってしまうこと
になって、兵十と別れたら、いやな思いをせんらんようになる。

T おっ、すごいこといった。もういっぺん言って。

宏 今まで兵十といっしょに暮らしてて、そこで、やめてしまたら兵十と縁を切つてし
まうことになるから、ほんで、やめられへん。

T うん。うん。

毎日毎くりを拾って持っていった、その毎日を切ってしまったら……

まいちゃん、何かある？

麻衣子 せっかく友達になれたのに、そこでやめたら、もう友達じゃなくなるし、もと
のいたずらごんになるし、もう二度ともどれないという感じがするから

T 二度と戻れない？何に？

麻衣子 今やっていることに。

T ここで捨ててしまったら、二度ともう、こういう楽しいことに出会えないだろう。

わかる？今捨ててしまったらもう二度とこんなふうに思いをかける相手に出会うこともないだろう。

康治 えつとな、兵十とかは特別な人やからな、やめたらまたもとの暮らしに戻ってな
Tこの前があるわけよな。一人ぼっちで、穴の中でおもしろくない、つまらない、わるさばっかりしてうっぷんをはらしていたこういう暮らしがあつて、こんな楽しい暮らしがあつて、今まいちゃんがこういった。こんな楽しい暮らしをもう二度とつかむことはできないと思うと、自分が切つてしまえない。兵十とのつながりを失いたくなかつた。そういうふうに残んでいいですか。

そこままで、自分の考えを書いてみてください。

C書く

Tじゃ、くみちゃん、ちよつと書いてみてください？

久美子 やっぱり兵十のことがわすれられないし、兵十もほつといたら、やっぱり一人ぼっちでさみしい暮らしになるから。

T独りぼっちの兵十をほつておけなかつた。これは清貴君が言つてたことやね。

恵理子ちゃんは？

恵理子 ……

寿子 自分で兵十との縁を切つたら、こんな楽しい暮らしに二度と戻れない。だから、神様と言われても持つていく。

迪彦 せつかく人間の気持ちに近づいてきたのにまたやめてしまったら、いたずらのごんにもどつてしまう。

Tあのごんにもどりたくなかつたということやな。俊之は

俊之 今やめたら、こんな楽しいことに二度とあえないから、またさびしくなる。

兵十は

Tほうすると、兵十のためにもつとしてやりたいという気持ちがある。

和寿 うーん

T有佳子ちゃん先言つて。

有佳子 今までやつてきたこと楽しいことやうれしいことをなくしたくなかつた。

巫未 いたずらごんにもどりたくなかつた。

麻由 今やめたらいたずらごんぎつねになつてしまうから、それがこわかつた。

T昔の暮らしにもどるのがこわかつた。

賢治

T北斗君、最初償いつて言つてたけど、今もそう思う？

北斗 ここでやめたら、ごんもさびしくなるし、兵十もさびしくなる。

めぐみ 神様と思われても兵十を一人にしたらかわいそうだから。

T今ずつと聞いていると、もう一つありますね。もう昔のひとりぼっちにもどりたくないという気持ちがある。それと、この一人ぼっちの兵十に何かしてやらすにおれなかつた。そういう気持ちもある。

安裕 自分自身にかつてうれしい気持ちがあるし

↑そんな思いで持っていったそのごんを兵十を撃ってしまおうんですね。